



こちらは、英文記事「[Update on Group A bauxite that can cause vessel instability](#)」（2017年9月19日付）の和訳です。

船舶の安定性をおびやかすおそれのあるボーキサイトの[研究報告書](#)がこのほど発行されました。これを受けて、国際海事機関（IMO）は、新たなIMOサーキュラーの発行と、国際海上固体ばら積み貨物コード（IMSBCコード）の改訂を将来的に行う見込みです。

2015年に、18名の船員が命を落としたBULK JUPITER号の転覆事故が発生した際、Gardは記事「[液化化するおそれのある貨物（ボーキサイトなど）の積み込み](#)」の中で、ボーキサイトなどの液化化しやすい貨物を安全に輸送するための知識が業界全体で不足しているのではとの問題提起を行いました。しかし、現在では、グローバル・ボーキサイト・ワーキング・グループ（GBWG）が2年間にわたって実施した詳細かつ興味深い研究のおかげで、知見が格段に深まりました。GBWGは、海上輸送されるボーキサイトの性質・特徴を研究し、ボーキサイトの安全な輸送を確保することを目的に、IMOの要請に基づいて立ち上げられたものです。GBWGには、鉱山会社、船主・運航会社、アルミナ精錬会社など、様々な業界の代表者が参加しています。

このGBWGの包括的な報告書は、インペリアル・カレッジによる第三者レビューを経ており、ボーキサイト輸送に携わる関係者向けの推奨文書となっています（なお、この報告書の作成には、国際P&Iグループが資金協力を行っています）。報告書のコピーを希望される方は、IMOまでメール（media@imo.org）でご連絡ください。

[2015年のIMOサーキュラー](#)では、ボーキサイト輸送に関して、上記の研究結果が出るまでの間の暫定的な方法が提示されていました。ボーキサイトは、当時IMSBCコードのグループC（液化化のおそれ

のない貨物)に分類されており、現在もそのまま据え置かれています。しかし、BULK JUPITER号の転覆事故とその当時IMOに提供された別の研究報告により、輸送許容水分値(TML)を超える湿度の貨物と混載輸送すると微粒子のポーキサイトが液状化するおそれがあることが認識されました。言い換えれば、一部のポーキサイトはグループA(液状化するおそれのある貨物)として輸送する必要があるということです。IMSBCコードの付録3には、次の記載があることに留意してください。

2.1. 微粒子貨物の多くは、十分に高い水分含有量を有する場合、水分の移動を起こしやすい。したがって、ある割合の微粒子を含有する湿った貨物は、積み込み前に流動特性について試験を行う必要がある。

興味深いことに、GBWGの研究報告では、グループAのポーキサイトはIMSBCコードの7.2.1項に記載されているような形では液状化しないと結論付けています。むしろ海上輸送中に貨物が圧縮されていくと、固形ポーキサイトの層の上に液体スラリー(水と微細粒子)が形成される「動的分離」の状態が生じるとしています。広い意味では、この状態も液状化するおそれのある貨物に該当します。この液体スラリーが形成されると、自由表面効果により船舶が不安定な状態になるおそれがあります。

IMOは現在、ポーキサイトの輸送に関する最新のサーキュラーをまとめているところであり、まもなく最新版が発行されるはずで、それまでは[2015年のIMOサーキュラー](#)が引き続き有効です。ポーキサイトを含む貨物(グループAとC)に関する新たな試験方法の草案と関連規則が最新のサーキュラーに含まれる見込みで、これらはIMSBCコードの将来的な改訂にも反映される見通しです。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gardは本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されています。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。